

令和2年度小松市立月津小学校 学校評価1（中間）

めざす児童生徒像

- ・ 自ら学び表現する子・・・主体的に学び、進んで自分の考えを表現する子
- ・ 友達と協働できる子・・・友達や学校のために、他者と協力して働く子
- ・ ねばり強くやり抜く子・・・何事にもねばり強く取り組み、最後までやりぬく子

※児童生徒達成結果－教員結果・保護者結果

| 目標      | 項目         | 目標指標                                       | 評価達成度アンケート内容・調査項目               | 数値・アンケート結果 (%) |      |     | ※差   | 達成状況の分析  | 改善策 |
|---------|------------|--|---------------------------------|----------------|------|-----|--|--|-----|
|         |            |  |                                 | 教員             | 児童生徒 | 保護者 |  |  |     |
| (学校で設定) | ねばり強くやり抜く子 | 学校行事や個人の目標に向かって、ねばり強く取り組む児童の割合を100パーセントにする | ① 個人で立てたためあてに向かって、あきらめずに取り組んだ。  | 100            | 93.8 |     | ①については、学期初めに各学級で立てた個人の目標に向かって、あきらめず取り組む姿が見られた。②については、基礎・基本である漢字50問テストや計算プリント、ドリルについて目標を達成するまで取り組むことができた。期日が守れない等、もう少し頑張れたと感じている児童も若干名いた。 | ①について、2学期以降もねばり強く取り組むことを声かけしながら全校で意識していきたい。②については一学期と同様に、漢字や計算について目標が達成できるまで粘り強く取り組み、基礎基本の定着を目指していきたい。 |     |
|         |            |  | ② 漢字・計算のプリントにねばり強く取り組み、目標を達成した。 | 100            | 95.5 |     |  |  |     |
|         |            |  | ③ 学校行事に、目標を持ってねばり強く取り組んだ。       |                |      |     |  |  |     |
|         |            |  | 集計                              |                |      |     |  |  |     |

| 目標   | 項目        | 目標指標                         | 評価達成度アンケート内容・調査項目                     | 数値・アンケート結果 (%) |  |  | ※差  | 達成状況の分析  | 改善策 |
|------|-----------|------------------------------|---------------------------------------|----------------|--|--|---|--|-----|
| 重点項目 | 働き方や業務の改善 | すべての項目について肯定する教員の割合を80%以上とする | ① 80時間越えゼロに向け、時間外勤務の削減に取り組んでいる。       | 92.3           |  |  | ・コロナ禍で出張や行事が中止になったり、臨時休業などで80時間を超える教職員が少なかった。その中において、教頭は新型コロナウイルスによる様々な変更などの対応に時間をとられ、80時間を超えた。<br>・公務の平準化については100%の達成率であるが、各主任は負担がかかるので、A評価ではなかった。 | 2学期以降、行事や出張が増えることが予想されるが、主任を中心とした分掌部会を機能させ、早めの提案と調整で組織的・計画的に業務を遂行させ、時間外勤務の削減に努めるように、常に声をかけあうようにする。教頭業務をさらに精選し、見直しをもって計画的に業務を遂行するようにする。 |     |
|      |           |                              | ② 校務分掌や業務の整理・統合が図られており、業務の平準化がなされている。 | 100            |  |  |   |  |     |
|      |           |                              | ③ 提案活動後直ちに振り返り、提案文書を訂正し、業務の改善に努める。    | 100            |  |  |   |  |     |
|      |           |                              | 集計                                    |                |  |  |   |  |     |

| 目標        | 項目   | 目標指標                           | 評価達成度アンケート内容・調査項目                                     | 数値・アンケート結果 (%) |      |     | ※差   | 達成状況の分析  | 改善策 |
|-----------|------|--------------------------------|---|----------------|------|-----|--|--|-----|
|           |      |                                |   | 教員             | 児童生徒 | 保護者 |  |  |     |
| 小松市共通重点項目 | 学校研究 | ③について<br>そう感じていると答える教員の割合80%以上 | ① 学校でテーマを決め、講師を招聘するなどの校内研修を行っている。                     |                |      |     | ③について、肯定する教員の割合は100%であった。その内、A評価は41.7%、B評価は58.3%であった。<br><br>この結果から、まだ今年度の学びを深める手立てについての周知が十分ではないと考えられる。 | 2学期の授業再開を前に、研究全体会を開き、研究主題や研究内容について、職員全体で共通理解を図る。<br><br>また、1学期の反省を踏まえたうえで、2学期からの研究の取り組みについて提案する。提案する際には、新しいものを増やすばかりではなく、1学期やっていたことを改善し、子ども達の実態に沿った提案となるようにする。そうすることで、職員全体で必要感を持って取り組めると考える。 |     |
|           |      |                                | ② 研究主題に迫る目指す授業像（児童生徒像）を共有し、研究の視点に沿った授業研究会を計画的に行っている。  | 100            |      |     |  |  |     |
|           |      |                                | ③ 教職員一人一人が児童の主体的な学びとなるように、学びを深める手立てを意識し、授業改善に取り組んでいる。 | 100            |      |     |  |  |     |
|           |      |                                | 集計  |                |      |     |  |  |     |

| 目標     | 項目 | 目標指標                           | 評価達成度アンケート内容・調査項目   | 数値・アンケート結果 (%) |      |     | ※差  | 達成状況の分析   | 改善策 |
|--------|----|--------------------------------|---|----------------|------|-----|---|---|-----|
|        |    |                                |   | 教員             | 児童生徒 | 保護者 |   |   |     |
| 指導力の向上 | 授業 | 算数科において<br>②⑥の項目が児童・教員ともに80%以上 | ① 児童生徒は、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいる。                                      | 90.9           | 96   |     | ・②について、今年度は学びの土台作りとして話す聴く取り組みをしているが、教員も児童も100%ではなかった。<br>原因としては、4月に提案はしたが、コロナ禍で授業ができず、取り組むまでに期間が空いてしまったこと、取り組む期間を区切らなかつたため、だらけてしまったことが考えられる。<br><br>・⑥について、教員の達成感が得られてると評価した100%に対して児童が授業において達成感を得られていると肯定したのは96%であった。教員と児童の差は4%で、児童の方が割合が低かった。<br>しかし、A評価を見ると、教員は27.3%なのに対し、児童は75%であった。<br><br>この結果から、児童は「達成感を得られている」と感じている児童は多いが、中には「達成感を得られていない」児童が少数いると分かる。職員はこの少数の児童が達成感を得られるようにしていく必要がある。 | ・②については1学期の反省を生かし、2学期の最初の週を「話す聴く強化月間」とした。全校で話す聴くについての意識を高め、レベルアップを目指す。<br>また、取り組む際には「なぜ話す聴くが大切なのか」をクラスで話し合い、取り組みの意味を子ども達と共通理解し、取り組んでいる。<br><br>・⑥については、全員が学びの達成感を得られるよう、教員が授業をコーディネートしていく必要がある。<br>2学期以降の研究授業や校内研修を通して、今年度の研究を深め、教職員の授業力の向上を図る。また、学びの土台作りの取り組みを通して、子ども達の意欲や学習に向う姿勢も育てていく。 |     |
|        |    |                                | ② 児童生徒は、学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができる。                      | 90.9           | 96   |     |   |   |     |
|        |    |                                | ③ (発表力)<br>児童生徒は、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組み立てなどを工夫して発表している。 | 72.7           | 91.5 |     |   |   |     |
|        |    |                                | ④ (記述力)<br>児童生徒は、自分の考えを書く機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組み立てなどを工夫して書いている。    | 90             | 95.5 |     |   |   |     |
|        |    |                                | ⑤ 児童生徒は、授業の最後に学習内容を振り返る活動をよく行っている。  | 100            | 96.6 |     |   |   |     |
|        |    |                                | ⑥ 児童生徒は、自ら学び、学習に対する達成感を得られている。  | 100            | 96   |     |   |   |     |
|        |    |                                | 集計  |                |      |     |   |   |     |

| 目標    | 項目   | 目標指標                  | 評価達成度アンケート内容・調査項目                                       | 数値・アンケート結果 (%)                 |      |     | ※差  | 達成状況の分析  | 改善策 |
|-------|------|-----------------------|---|--------------------------------|------|-----|---|--|-----|
|       |      |                       |   | 教員                             | 児童生徒 | 保護者 |   |  |     |
| 学力の定着 | 学力調査 | ④⑤について目標点を達成することができる。 | ① 学力の重点目標や具体的な取り組みは全教職員で共通理解し、目標を達成できるよう取り組みは徹底して行っている。 | 100                            |      |     | ①②について、ロードマップに位置づけられている役割や重点、取組について教職員全体で共通理解しスタートしたが、休校の影響で4月5月の取り組みが6月以降に移動する等、当初の予定が大幅に変更した。<br><br>そのため、アンケート結果100%中A評価が①については50%、②については33.7%であった。④⑤については3年、5年の国語、2年、4年、5年算数で目標に届かなかった。学力の個人差が大きい学年の習熟度の差が点数に反映されている。 | ①②については、ロードマップに位置づけられている学力向上・授業づくり・授業改革の取り組みを検証しながら予定に沿って進めていきたい。<br>そのために研究推進委員会やミニ部会を有効に活用したい。④⑤については、目標に届かなかった学年を中心に、帯タイムを利用し、教職員全体で手厚く、個別の支援も取り入れて、計画的に取り組むたい。 |     |
|       |      |                       | ② 学校力向上ロードマップにおける各自の役割を教職員が理解し、定期的な検証がなされている。           | 100                            |      |     |   |  |     |
|       |      |                       | ③ 近隣等の小中学校と学力調査の結果や分析、成果や課題を共有している。(小中連携)               |                                |      |     |   |  |     |
|       |      |                       | ④ 単元末の国語のテストの平均点を低学年は90点、中学年と高学年は85点を目標とする。             | 1年93点2年91点3年81点4年85点5年76点6年91点 |      |     |   |  |     |
|       |      |                       | ⑤ 単元末の算数のテストの平均点を低学年は90点、中学年と高学年は85点を目標とする。             | 1年96点2年87点3年85点4年82点5年81点6年90点 |      |     |   |  |     |
| 集計    |      |                       |   |                                |      |     |   |  |     |

| 目標   | 項目                        | 目標指標                    | 評価達成度アンケート内容・調査項目 | 数値・アンケート結果 (%) |      |  | ※差  | 達成状況の分析  | 改善策 |
|------|---------------------------|-------------------------|-------------------|----------------|------|--|---|--|-----|
| 家庭学習 | ①について児童アンケートの割合を80%以上にする。 | ① 自分で計画を立てて勉強している(3年以上) |                   | 90             | 85.2 |  | 自分で計画を立てて学習していると答えた教職員の割合は90%、児童の割合は85.2%であった。一学期の家庭学習強化週間で計画を立てて学習することに対する児童の○の割合は89.2%であった。学習の中身に物足りなさを感じる意見があった。 | 家庭学習への意識の向上が目的であり、これより満足するものではないと思うので、継続してよいものの紹介などをしながら、啓発していきたい。個に応じた指導を心がけ、内容の充実させていくことが大切なので、そこを目指せるよう声かけしていきたい。 |     |
|      |                           | ② 児童生徒の家庭学習の評価・指導を行っている | 100               | 99.4           |      |  |   |  |     |
|      |                           | 集計                      |                   |                |      |  |   |  |     |